

Vol.64

院長 関の

Face to Face

2013年 10月 1日 発行



変形性関節症とは、関節を構成している骨の周りの軟骨面が磨り減って骨同士がぶつかりあい、そのために骨が変形し、周りの神経や血管を圧迫、痛みや機能障害を起こす状態を言います。多くはよく動く関節、頸・腰・膝・股関節などに多発します。「膝が痛む」といえば大抵はお年寄りで、加齢からくる変形性関節症ですが、若者であっても、スポーツ

「変形性関節症」を防ぐ



などによる怪我などから姿勢が崩れ、早くに変形する場合もあります。また、中年でも若い頃の傷が影響する場合も多く見られます。つまり、変形する理由としては単純に「使いすぎで磨り減る」だけではなく、「姿勢の崩れ」も見逃せない原因の一つであると言えるのです。整形外科的治療法としては、患部にヒアルロンサンの注射をしたり、電気を当てたり、暖めたり、局所的

なものを中心となります。場合によっては手術をすることもあります。

我々施術者は、偏った姿勢を正す整体を施します。何故なら、偏った姿勢は関節を構成する骨に偏った鋭角な圧力をかけてしまうからです。ほっておけばますます症状は悪化していきます。変形は40代ぐらいから始まります。痛みを感じたらまだ大丈夫と過信せず、早めに専門家の指導のもと、姿勢の崩れを認識し、正しい姿勢を習慣化させるための筋肉作りや柔軟性を身に着けたいものです。

関 修一(せきしゅういち)
健育会 東銀座整骨院・鍼灸院・
整体院 院長

代替医療の総合治療院としての確立を目指す

タイトルの face to faceは「患者さん自身と向き合って患者さんの症状と闘う」ことを願ってつけた

* 毎月1日の発行です